

24 章: 富国強兵と文明開化

【富国強兵】

富国強兵: 欧米列強に対抗するための近代国家をつくる

主な政策

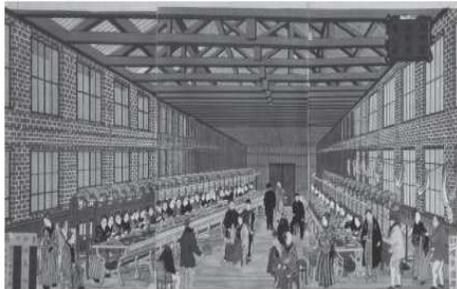
学制 : 近代化の基礎作り、教育による国民意識の向上
徴兵令 : 武士のみの軍隊から国民による西洋式の軍隊へ
地租改正: 安定した財源の確保

【殖産興業】

①近代産業の育成

殖産興業: 産業を発展させて経済力をつける
欧米の技術や機械を取り入れる
富岡製糸場(群馬県)などの官営模範工場を開設

富岡製糸場



②交通・通信

鉄道:1872年 新橋～横浜間が開通

1889年 東海道線が全通

電信:1869年 東京～横浜間が開通

郵便:1871年 郵便制度が開始

前島密の意見

【文明開化】

①**文明開化**:欧米の文化や習慣が取り入れられ、都市部を中心に人々の生活が変わる

→都市にレンガ造りの洋館

道路に馬車・人力車・ガス灯

洋服・ざんぎり頭

太陰暦を廃止して太陽暦を採用

1日24時間制や週7日制を採用

食生活の変化:牛肉を食べるなど

②新しい思想

欧米の自由や平等などの思想が広まる

福沢諭吉:「学問のすゝめ」

中江兆民:ルソーの「社会契約論」を紹介

→新聞や雑誌も創刊され、自由民権運動へとつながる

【明治初期の外交】

<岩倉使節団の派遣>

1871年 **岩倉使節団**を欧米に派遣(約2年間)

目的 : 欧米との不平等条約の改正など

全権大使:**岩倉具視**

参加者 : 大久保利通・木戸孝允・伊藤博文など
津田梅子・中江兆民ら留学生も同行

→不平等条約の改正交渉は失敗したが、欧米から学ぶことで日本の近代化を進める

<岩倉使節団>



【清・朝鮮・ロシアとの関係】

①清との関係

1871年 日清修好条規→清と対等、正式に国交を開く

②朝鮮との関係

征韓論が起こる

内容:武力で朝鮮に開国を迫る政策

中心:西郷隆盛・板垣退助

↓

1873年 欧米から帰国した岩倉具視・大久保利通らが国力充実の優先を主張

結果:政府が分裂し、西郷隆盛や板垣退助は政府を去る

1875年 江華島事件

内容:日本の軍艦が無断で測量したことで朝鮮と衝突

↓

1876年 日朝修好条規

内容:朝鮮にとって不平等な条約を結ばせる

日本の領事裁判権を認めさせる

朝鮮に関税自主権がない

③ロシアとの関係

1854年 日露和親条約

内容:日本の領土→択捉島以南(北方領土を含む)

ロシアの領土→得撫島以北の千島列島

※樺太は両国の雑居地

1875年 樺太・千島交換条約

内容:日本の領土→千島列島全島

ロシアの領土→樺太(サハリン)

④今の保有

小笠原諸島→1876年に日本の領有が確定
国際的な承認を受ける

尖閣諸島 →1895年に内閣の決定により沖縄県に編入

竹島 →1905年に内閣の決定により島根県に編入
江戸時代にも渡航が許可されていた

【北海道の開拓とアイヌの人々】

①北海道の開拓

1869年 蝦夷地を北海道に改称
農地の開墾・鉄道や道路の建設を行う

屯田兵:北海道の開拓・北方の警備を目的とする農兵
生活に困窮した士族など

②アイヌの人々

北海道の開拓により、アイヌの人々は土地や漁場を奪われる

↓

日本への同化政策により、アイヌの人々の伝統や文化が否定

↓

1899年 北海道旧土人保護法

【琉球処分】

日本政府による琉球への政策

1871年 廃藩置県で琉球王国を鹿児島県に編入

1872年 琉球藩を設置

1874年 台湾出兵

1879年 琉球藩を廃止し、沖縄県を設置 (琉球処分)

清は朝貢国である琉球を失い、日本に強く抗議

↓

琉球や朝鮮をめぐる問題で清との対立が深まる